マレーシア UTHM の学部生 10 名がビッグデータ解析などを活用したモノづくり改善の体験 形学修に取り組む

東京都市大学

2018 年 7 月 4 日から 7 月 11 日までの 9 日間、さくらサイエンスプランによる招聘で、マレーシアの Tun Hussein Onn University of Malaysia (UTHM) の学部生 10 名と引率教員 1 名を迎えました。

招聘者はいずれも Faculty of Technology Management and Business に所属し、モノづくり改善に使われる手法やコンピュータツールを使用した体験形学修に取り組みました。

初日となる7月5日は、オリエンテーションに続き、引率教員 Dr. Yunos Nagadiman による特別講義を、本学の学部生・大学院生と UTHM からの招聘学生合同のクラスで実施し、両大学生ミックスの小グループによる討議と発表を行いました。来日の緊張感も解け早速 Line 交換する姿も見られました。





引率教員による特別講義で両大学ミックスの小グループによる討議と発表(7月5日)

6日は、生産から販売にわたるビジネスプロセスの改善手法の学修に続き、スーパーマーケットの販売施策の効果を評価できるセールスシミュレーションにより、販売施策の検討を疑似体験しました。

このさくらサイエンスプラン期間に合わせて交流計画協議のため来日した UTHM の Vice-Chancellor (学長代行) Prof. Dr. Wahid Bin Razzaly が教室を訪れ、来日した学生と懇談する場面もありました。



来日した UTHM の Vice-Chancellor が教室を訪れ学生を激励(7月6日)

7日は、日本科学未来館を見学し、ASIMOの知的な動きが見られるデモや様々な体験型展示に興味が尽きない様子でした。その後、本学学生の案内により、東急ハンズなどお客様へのサービスに特徴のある日本のセールス現場の陳列方法や店員の対応方法を体験しました。



日本科学未来館で楽しく学ぶ(7月7日)

8日の日曜日は、日本文化の感じられる東京名所を見物しました。浅草では、最近評判のハラールのラーメン屋に行きました。秋葉原の電気街ではプリクラを体験し、画像処理技術により別人のようになった写真を撮りました。

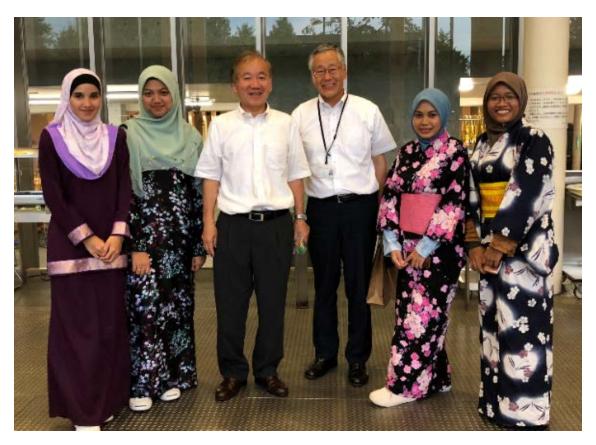
9日は、日本製品の高品質を実現している品質管理の事例と、新製品企画の手法であるエバリュエーション・グリッド法を用いて、マレーシアと日本の比較をする演習を行いました。 更に 10 日は、様々なビジネス現場で使われているビッグデータ解析をデータ解析言語である R を用いて体験しました。研究室が所有するソフトウェア品質に関するビッグデータを用いて、バグの推定や SPAM メールの推定をするプログラム実験をしました。アルゴリズムの違いによる推定精度や収束曲線の違いを見て、先端技術がビジネスに与えるインパクトを体験しました。



本学学生のサポートによりビッグデータ解析プログラムを短時間で実行(7月10日)

プログラム最終日となる 11 日の学修成果発表会では、学術的成果だけでなく日本文化への印象が語られました。発表会終了後、東京都市大学副学長である吉崎真司教授から終了証が授与されました。

フェアウェルパーティでは、来日学生が持参した衣装を着て民族舞踊を披露してくれる 等、今回の招聘に深く感謝していることがうかがえました。日本の着物を是非着たいという 希望に応えて本学学生が用意した浴衣をマレーシア衣装の上に着て大喜びするなど、最後 まで友好的な交流を深めることができました。



フェアウェルパーティ -民族衣装の学生、その上に浴衣を着た学生-(7月11日)